

2019年度9月卒業式式辞

2019年9月19日
中京大学学長 安村 仁志

本日卒業される皆さん、おめでとうございます。また、学びを支え、ご出席くださいましたご家族の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。教育・指導にあたってこられた教職員の方々にも感謝申し上げます。「コングラチュレーションズ！」このことばは、皆で共に喜ぶということ、その思いがいっぱいにこもった言葉です。

長寿社会を迎え、卒業後の人生は六十年、七十年に及ぶでしょうか。その長い人生を生きていくうえで、皆さんにとって本学での学生生活は大きな拠り所になります。中京大学は、皆さんがこの先どのような分野、どのような地で活躍されるにしても、母校です。母校とは、英語ではAlma Mater（アーマ・マター、あるいはアルマ・メイタ）です。これは今から千年ほど前の一〇八八年創立の世界最古のイタリアのボローニャ大学の校訓ともなっているラテン語Alma mater studiorum（学びを養ってくれた母）という意味に由来します。ここで、本卒業式を通じて皆さんの母校となる中京大学について心にとめておいて頂きたいこととお話します。

まずは歴史からです。本学は一九五四年に開学し、六五年の歴史を持ちます。商学を学ぶ単科大学から出発し、その後体育学部、法学部、文学部を加え、総合大学への歩を進めました。一九九〇年理系の情報科学部（現在の工学部です）が設置されなどして現在は文系・理系合せて十一学部に一万三千人弱が学ぶ大学となっています。卒業生は、学部だけで十三万人余に及びます。それだけの同窓生が国内外で活躍されています。皆さんも本日からその仲間入りです。こうしたこれまでの歩みにおいて是非心にとめていただきたいのは、《進取》の精神です。進んで新しいことに取り組もうということです。時代のニーズを踏まえた新学部の設立や他の大学に先駆けて行ってきたことが多くあります。皆さんもこの気風をDNAとして受け継いでいることを忘れず、それぞれ果敢にチャレンジしていきましょう。

次に「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」という建学の精神についてです。学術の研鑽とともにジェントルマンシップ・レディシップの醸成とスポーツを通じてのスポーツマンシップの体得が目指されてきました。スポーツマンシップについては、ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークを作る、相手に敬意を持つが四大綱として掲げられています。これは社会的存在としての人間が大事にすべき普遍的理念です。中京大学はこれをベースに質の高い研究・教育、学術とスポーツの調和を求め社会に貢献できる優れた人材を育てることを目指してきました。そして現在、教育目標には「自ら考え行動する、しなやかな知識人の育成」を掲げています。

第三に今中京大学は何を目指しているかです。一八歳人口が減っていきます。かつては二六〇万人であったのが今や一一七万人です。その中で国公立合わせて日本には七八〇ほど大学があります。当然学生を集めきれない大学もでてきています。我々の中京大学は総志願者数が四万人を超えており、大丈夫です。本学ならではの特色を明確にし、ブランド力を高め、意欲ある若者が目標をもって入学する大学であり続けられるよう、学生・教員・職員がそれぞれベストを尽くす(Do my best!)、全体としてはDo our best!をもって躍動する大学を目指しています。AI(人工知能)がどんどん進化していき、人類の知能を超える転換点というシンギュラリティもやがて到来すると言われ、大学もどのように対応するかが問われますが、どんな時代であっても私は人間を教育する以上無機質な教育ではなく、個々の学生に対し成長を期待し愛をもって教育することを願い、AIという語はアー・イーと読み、愛を思い浮かべたいと思っています。情報革命により知識・情報の得方が変化し、便利さの代償からか《考えること》が後退していることを懸念しています。パスカルが言う《考える葦》たる人間の本性を大事にした教育、人間味の要素を失わない大学を求めていきたいと願います。

皆さんには以上申し上げましたこのような大学で学んだことを誇りとし、自信をもって羽ばたいていてください。

最後に、学長として願いを添えたいと思います。ある調査によりますと、現代の生活感覚は、「公」より「私」、「先」より「いま」、「期待」より「現実」のようで、今日の社会は《いま》《こ

こ》《わたし》に向かう社会だそうです。さみしさを感じてしまいます。そんな中名作『星の王子さま』を書いたフランスの作家サン・テグジュペリの『人間の大地』という作品にこんな一文を見つけました。「人間であるということは、責任を持つこと。人間であることは、自分とは関係がないと思われるような不幸な出来事に恥を感じる事。人間であることは、、自分の石を据えながら世界の建設に奉仕していることを感じる事」というものです。私たちは、私たちとともに世界を形成している人たちのことを思い、悲しい出来事も他人事とせず、この先の人たちに責任をもつということかと思えます。どうぞそのように生きていってください。

おめでとうございます。お元気で。ご健闘を祈ります。